



## アイスクャンドルミュージアムで、 小中学生のまちづくり提案が実現しました！

### 雪だるまカフェ

2月14日17～20時、中学3年生の2名が企画した「雪だるまカフェ」がアイスクャンドルミュージアムイベント内で実現しました。コモレビの観光協会前のスペースにお店を構え、準備を含めて5名の中学生と保護者のサポートで、雪だるまをかたどったマシュマロが浮かぶココアを販売。小さな子どもたちへのおやつすくいなども企画し、100杯以上のココアを売上げ、アイスクャンドルを盛り上げました。



### スノータイムアタック

2月15日14～15時、小学6年生の3名が企画した「スノータイムアタック」が実現しました。アイスクャンドルで子どもたちも思いっきり楽しめることをしたいと、実行委員に提案、初めての実施でした。小学校低学年の部5チーム、高学年の部4チーム、中学生以上2チームが出場し、見学者も30人程と、白熱した展開に大盛り上がりでした。企画した6年生は挨拶のなかで「来年も続けてほしい」と語りました。



### 2/12～25

### 地域共育インターンシップを実施

2月12日から25日までの2週間、「地域共育インターンシップ」が実施され、旭川、新潟、大分から4名の大学生が下川町を訪れました。

学生たちは滞在中、小・中・高校の授業への参加や、子どもたちの「居場所づくり」を通して地域住民と深く交流。アイスクャンドルミュージアムでのボランティアのほか、中学校図書室での学習スペースやスキー場での冬のあそび場にも挑戦しました。来町前から準備を重ねてきた企画には、子どもたちが楽しめるよう多くの工夫が凝らされ、どの現場も学生たちの熱意と笑顔に包まれた2週間となりました。



共

育

に

ゆ

一

す



### 2/20 第2回 しもかわ地域共育フォーラム2026を開催

■お問い合わせ  
教育委員会  
☎4-2511  
内線814

2月20日、バスターミナルに57名が集まり、地域共育フォーラムが開催されました。

基調講演では、安平町教育委員会 井内聖教育長から、「幼児教育と小中高をつなぐ地域一体の環境づくり」をテーマに具体的な事例を含めてお話がありました。井内氏は、民間の幼稚園園長から教育長に就任した経歴があり、自身が園長を務めた園でのヤマメのつかみ取りや泥んこ遊び、森での本物の自然体験など、子どもたちが「育ちたい」という根源的な力を信じる実践が紹介されました。また、安平町では北海道胆振東部地震をきっかけに新しい義務教育学校（早来学園）を建設。ワークショップを重ね、「学校は知識を得るためだけの場ではない。人と出会い、チャレンジできる居場所」というコンセプトを作り上げました。学校施設である図書室や家庭科室、音楽室等は地域住民も使える施設となっていて、平日昼間には0歳から90歳まで同じ空間に集う光景が見られるようになりました。「地域と学校で子どもを育てる」という考えを、「それぞれの目的で集まった人が同じ場所にいることで、結果的にコラボレーションが生まれる」という発想に転換して、様々な活動や交流が生まれている様子が紹介されました。

ポスターセッションや新教育目標の説明、パネルディスカッションも行われ、今回のフォーラムを通じて、教育は「与える」から「信じ支える」へ、そして地域全体で子どもの「自分らしさを育む」という方向性が共有されました。



1 井内氏による基調講演の様子 2 講演に聞き入る参加者 3 ポスターセッション発表の様子 4 教育目標の説明 5 パネルディスカッションと会場の様子 6 議論に熱がこもるパネリスト

### 感想

「こどもが育つまちづくり」とは、大人がコントロールすることではなく、こどもの「育ちたい」という思いを中心に据えることなのだ学びました。

「こどもの育ちを真ん中にする」とは、建物や仕組みよりもまず、共有する考え方やコンセプトを大切にすることなのだ感じました。

知識があふれる時代だからこそ、人との出会いや対話の中で育まれる学びが、教育(共育)とまちづくりをつなぐのだと感じました。